

2008年3月期(第63期)
中間決算の概要について

リバーエレクトック株式会社
(JASDAQ・6666)

会社概要

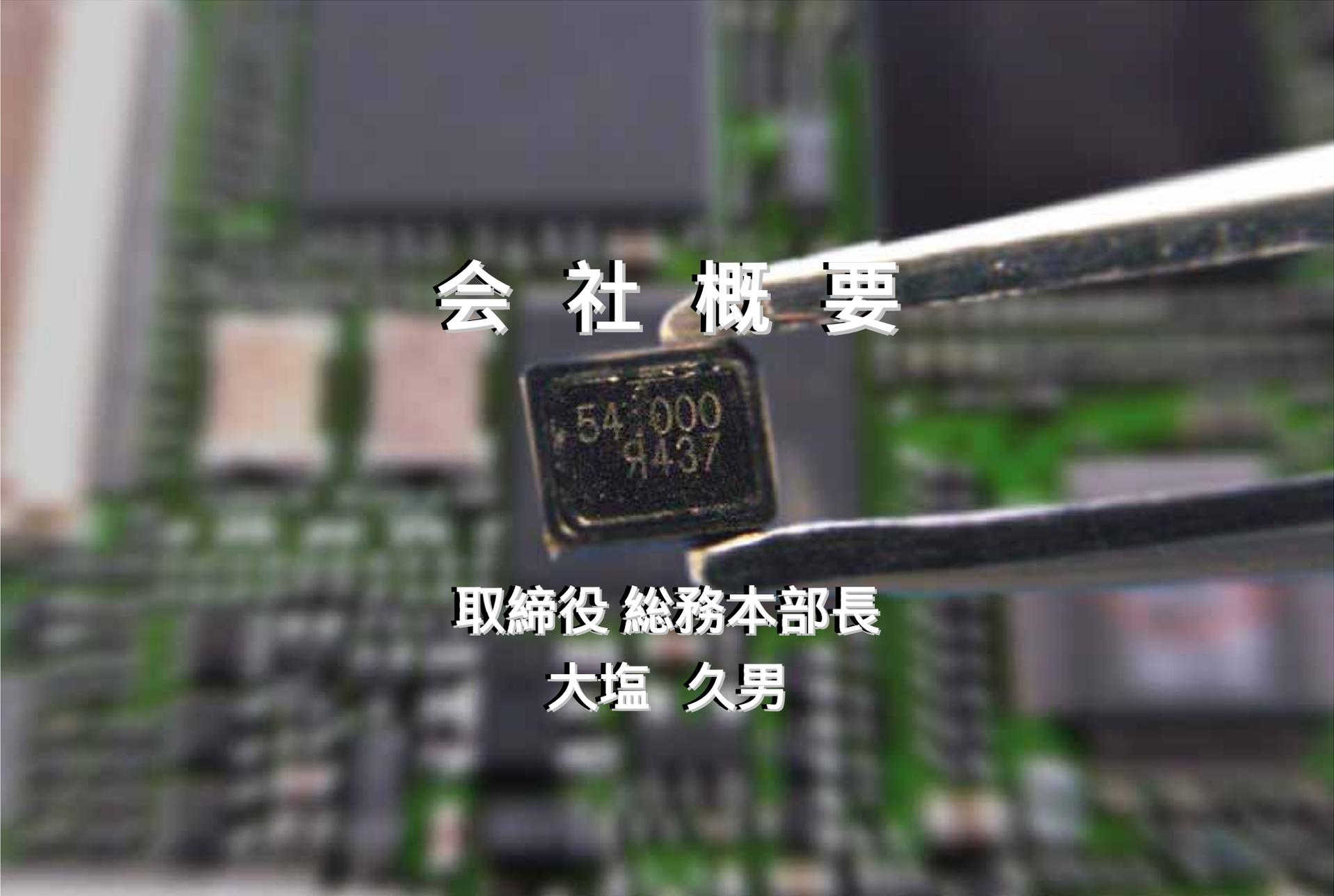
P. 3 ~ 7

2008年3月期中間決算概要

P. 8 ~ 19

2008年3月期の通期見通し

P.20 ~ 28

A close-up photograph of a small, square, dark microchip being held by a pair of tweezers. The chip has the numbers "54000" and "9437" printed on it. The background is a blurred green and grey, suggesting a laboratory or factory setting.

会社概要

取締役 総務本部長
大塩 久男

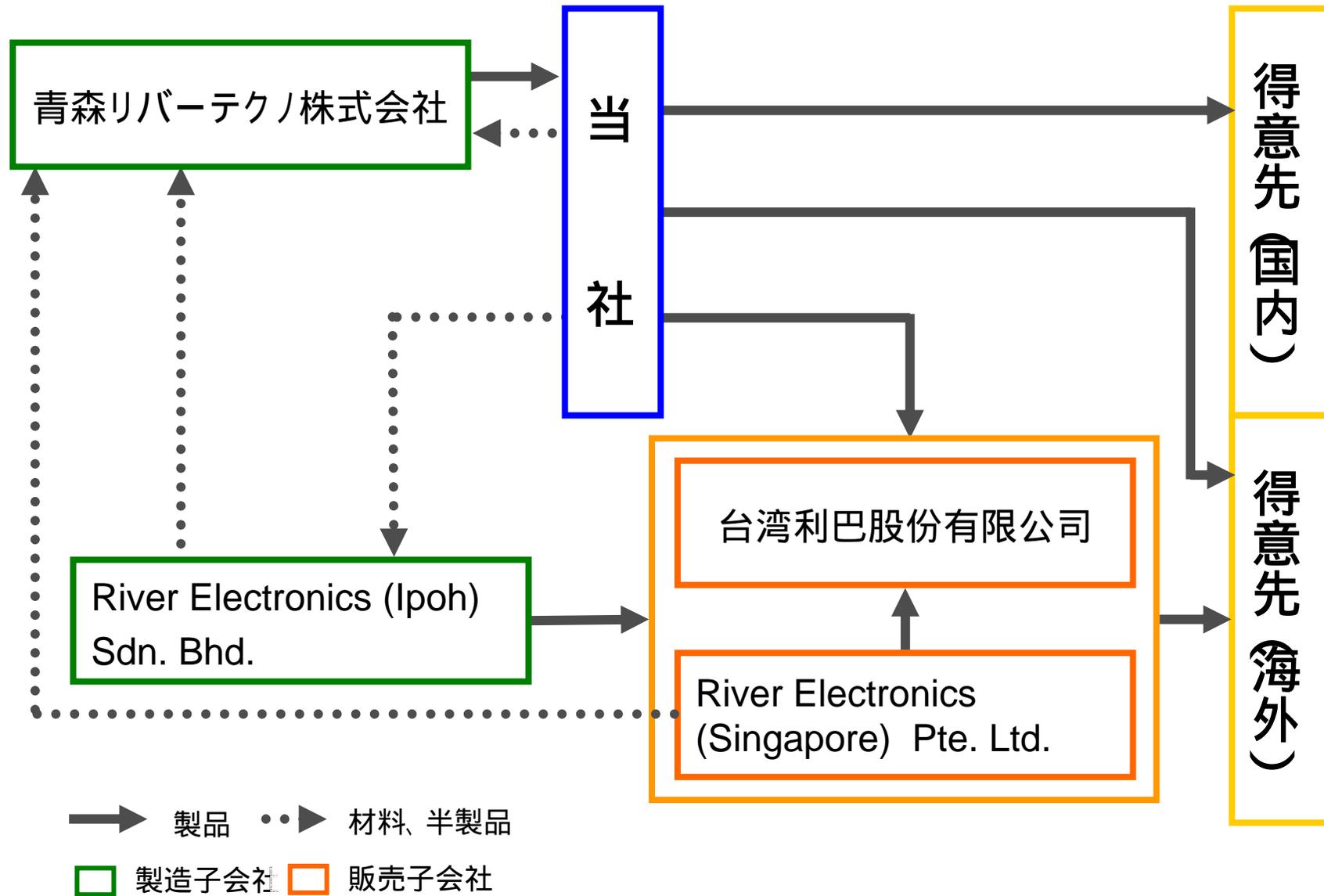
会社概要 (2007年9月末現在)

- 社 名 : リバーエレクトック株式会社
- 所 在 地 : 山梨県韮崎市富士見ヶ丘2丁目1 - 11
- 設 立 : 1951年3月9日
- 事 業 内 容 : 電子部品の製造販売
- 資 本 金 : 1,070百万円
- 単 元 株 式 数 : 100株
- 売 上 高 : 9,248百万円 / 8,403百万円 (連 / 単、2007年3月期)
- 経 常 利 益 : 890百万円 / 771百万円 (連 / 単、2007年3月期)
- 社 員 : 888人 / 121人 (連 / 単、臨時・派遣を含む)
- グループ会社 : 青森リバーテクノ株式会社
River Electronics (Singapore) Pte. Ltd.
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.
台湾利巴股份有限公司

当社グループの事業の内容 (2007年9月末現在)



事業系統図 (2007年9月末現在)



当社グループは水晶振動子と水晶発振器に
製品を絞り込んでいる



 は当社グループで製造・販売をしている水晶デバイス

SMD: Surface Mount Device

A close-up photograph of a small, square, dark-colored microchip being held by a pair of tweezers. The chip has the numbers "54 000" and "9437" printed on it. The background is a blurred green and grey, suggesting a laboratory or factory setting.

2008年3月期 中間決算概要

取締役 総務本部長
大塩 久男

第1Qに引き続き、超小型水晶製品の受注が好調を継続し、売上高、利益に大きく貢献

売上高

- ・ FCX-06(2016)は、前年同期比5.1倍
- ・ ボリューム製品は、前年同期ほぼ横ばい
- ・ 無線モジュール向けは、前年同期76.1%アップ

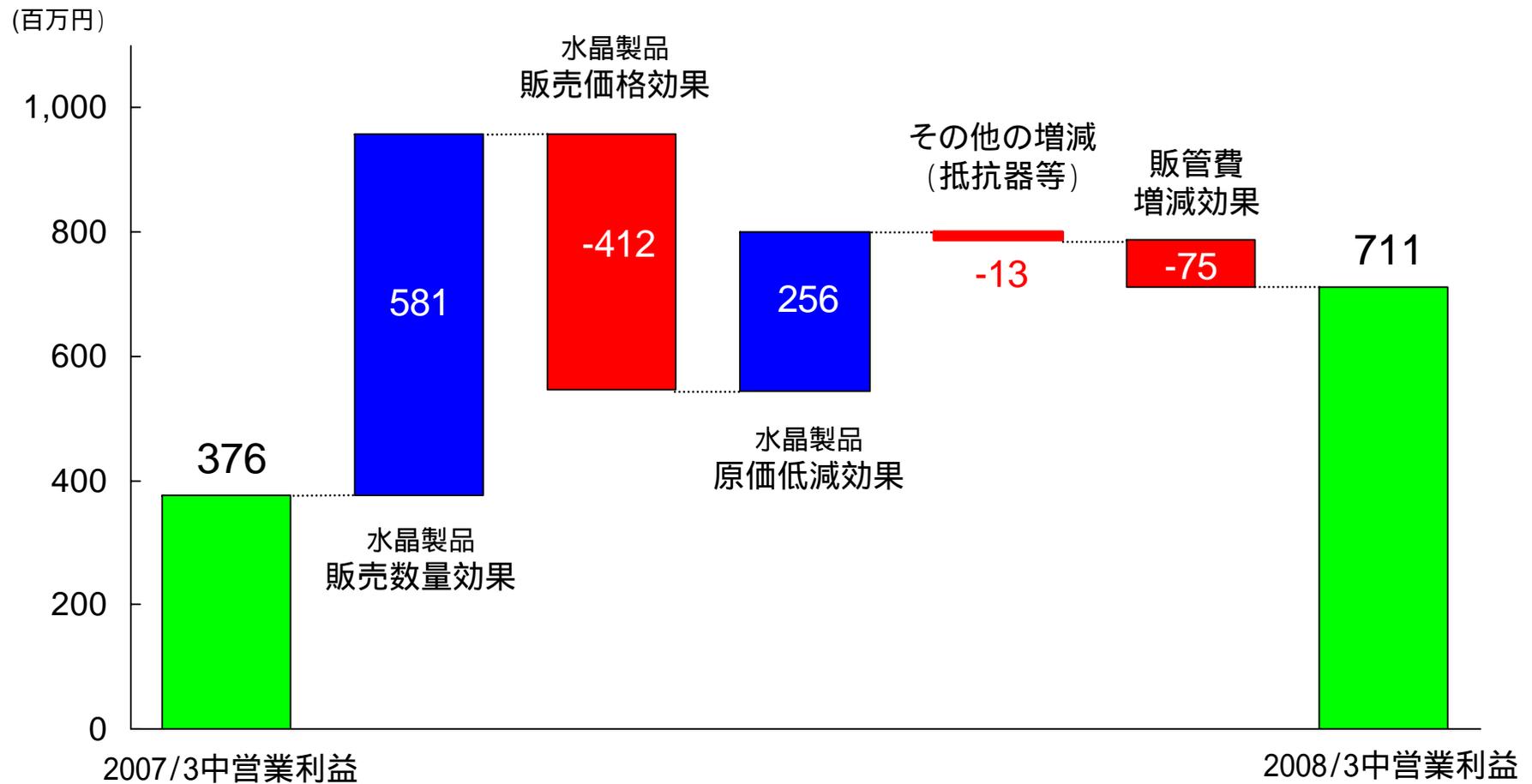
利益

- ・ 増収(数量)効果及び原価低減策のほか、販売価格の下落も想定内で推移し、大幅な増益を実現

超小型水晶製品の大幅な受注増による売上高の増加
数量効果に原価低減努力もあり、収益性も大幅アップ

(百万円)	2008/3中間実績			前年同期	期初計画	達成率 (対期初計画)
	金額	前期比	増減額			
売上高	5,000	+ 16.2%	698	4,302	4,682	106.8%
売上総利益 売上総利益率	1,604 (32.1%)	+ 34.3%	410	1,194 (27.8%)	1,400 (29.9%)	114.6%
営業利益 営業利益率	711 (14.2%)	+ 88.8%	334	376 (8.8%)	497 (10.6%)	143.0%
経常利益 経常利益率	716 (14.3%)	+ 88.1%	335	380 (8.9%)	491 (10.5%)	145.7%
当期純利益 当期純利益率	410 (8.2%)	+ 84.4%	188	222 (5.2%)	296 (6.3%)	138.7%

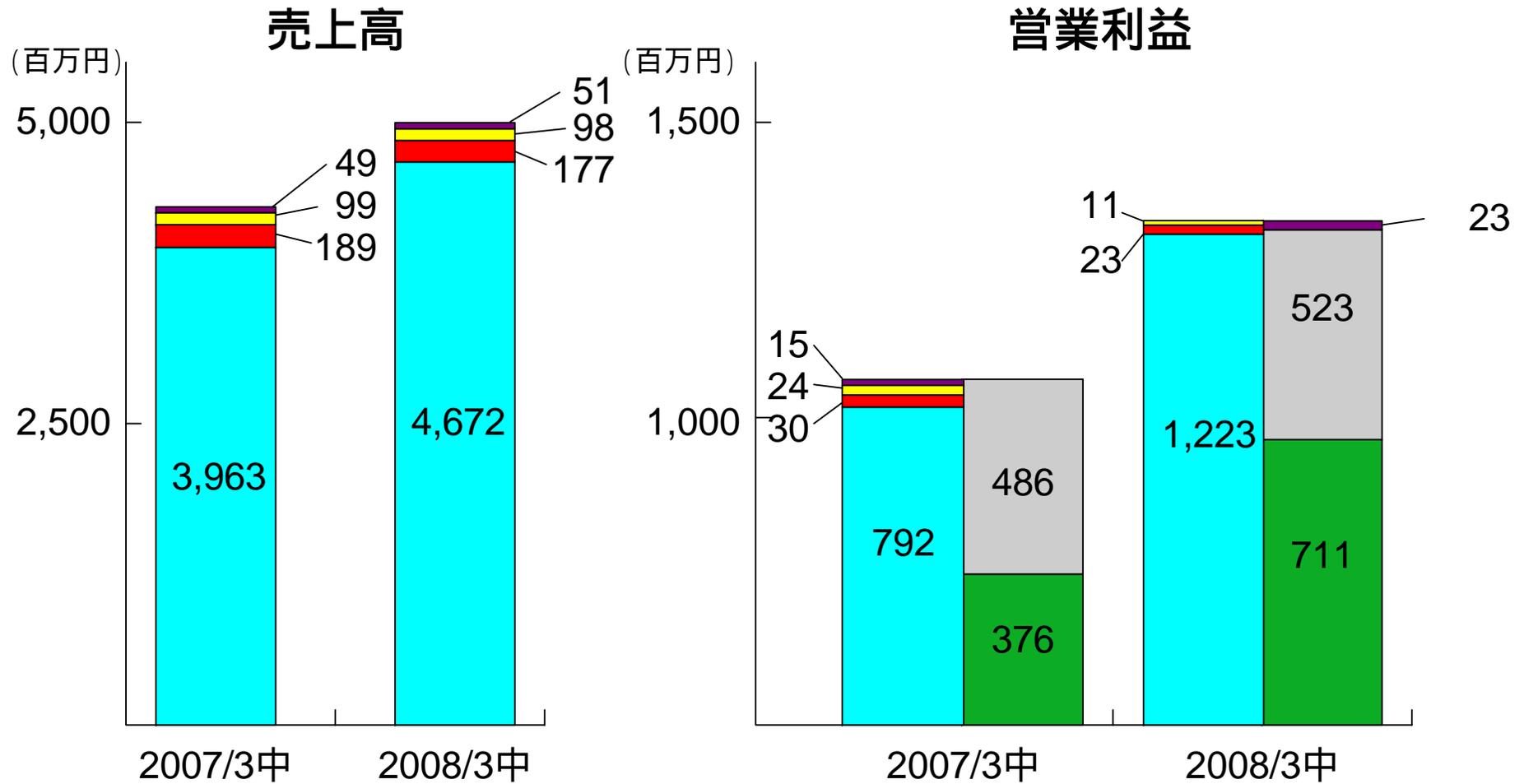
付加価値の高い小型水晶製品の受注増の影響が大きい
販売価格下落も想定範囲内にとどまる



事業の種類別セグメント情報

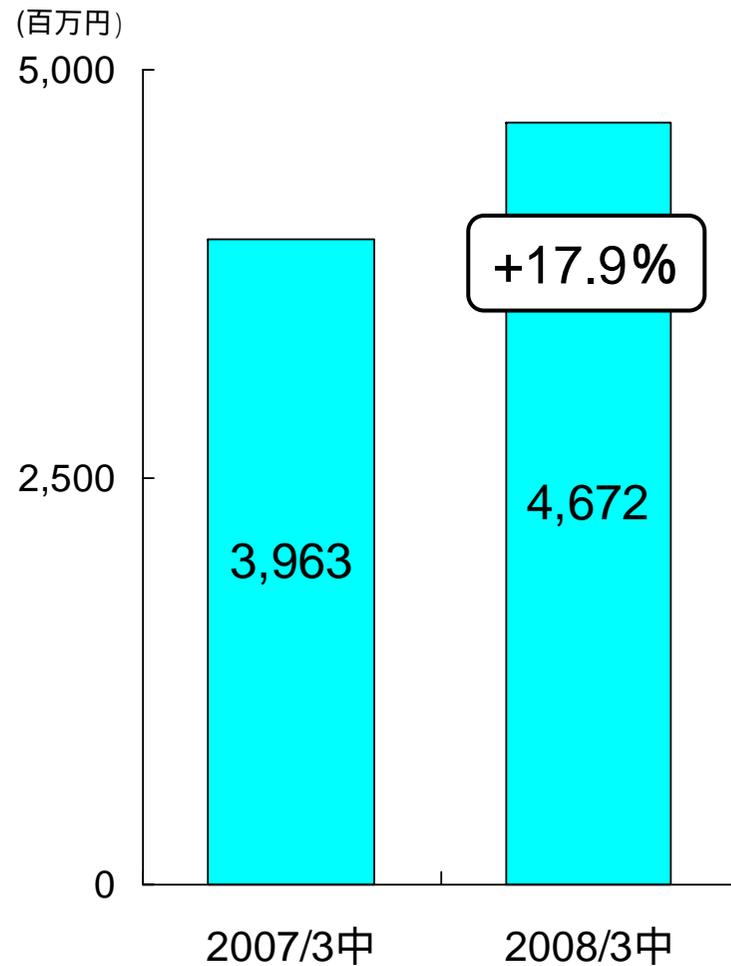
-
 水晶製品
 抵抗器
 インダクタ

-
 その他
 全社・消去
 連結営業利益

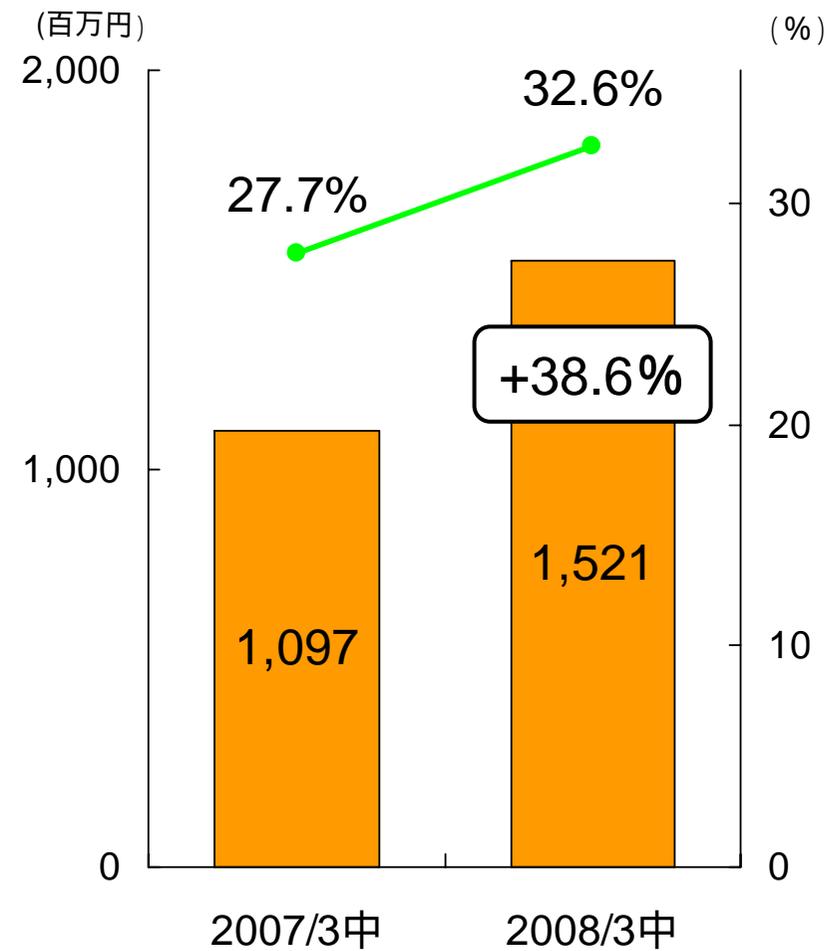


□ は対前期増減率

売上高



売上総利益(率)

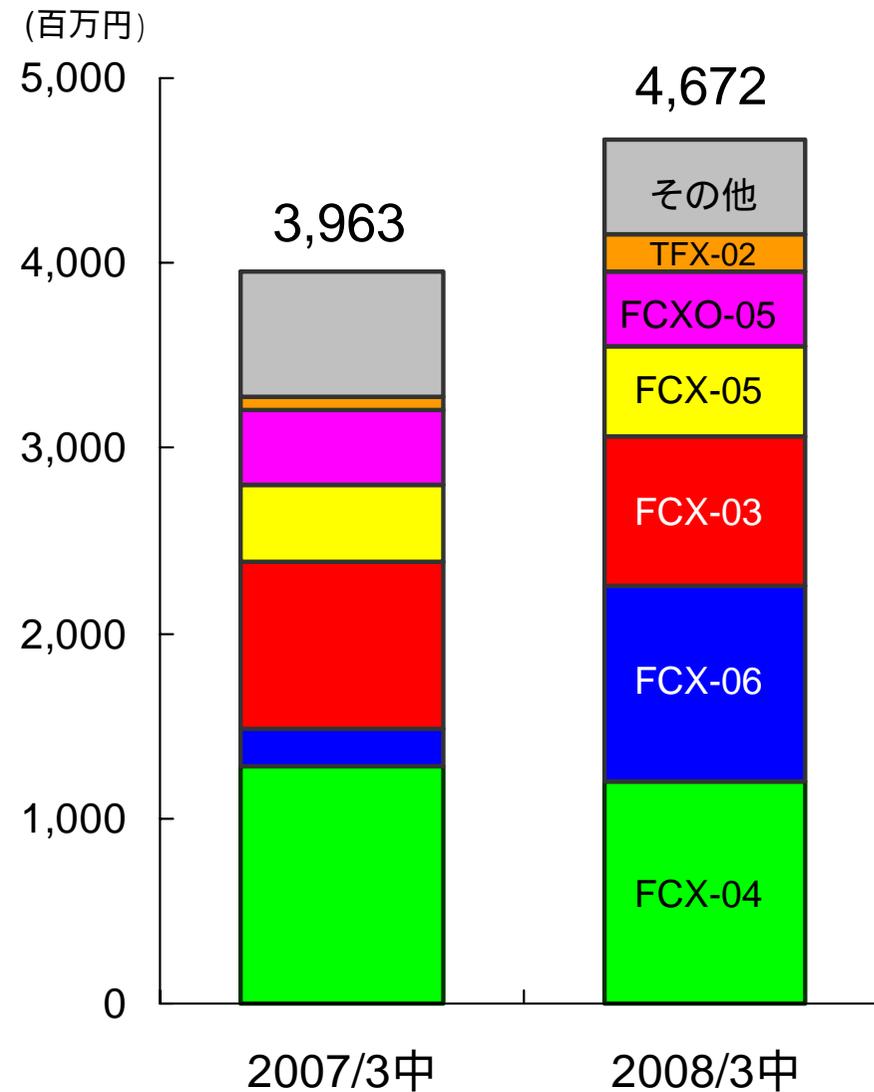


水晶製品別売上高

FCX-06: 前年同期5.1倍
 ボリューム製品は横ばい
 水晶発振器比率は13.1%と
 前期比3.7pt低下

売上高構成比

	2007/3中	2008/3中
FCX-04 (3225)	32.4%	25.7%
FCX-06 (2016)	5.2%	22.6%
FCX-03 (5032)	22.8%	17.3%
FCX-05 (2520)	10.4%	10.3%
FCXO-05 (2520)	10.1%	8.7%
TFX-02 (3215)	1.8%	4.3%
その他の水晶製品	17.3%	11.1%



水晶製品アプリケーション別売上高

無線モジュールが好調
前期比76.1%のアップ

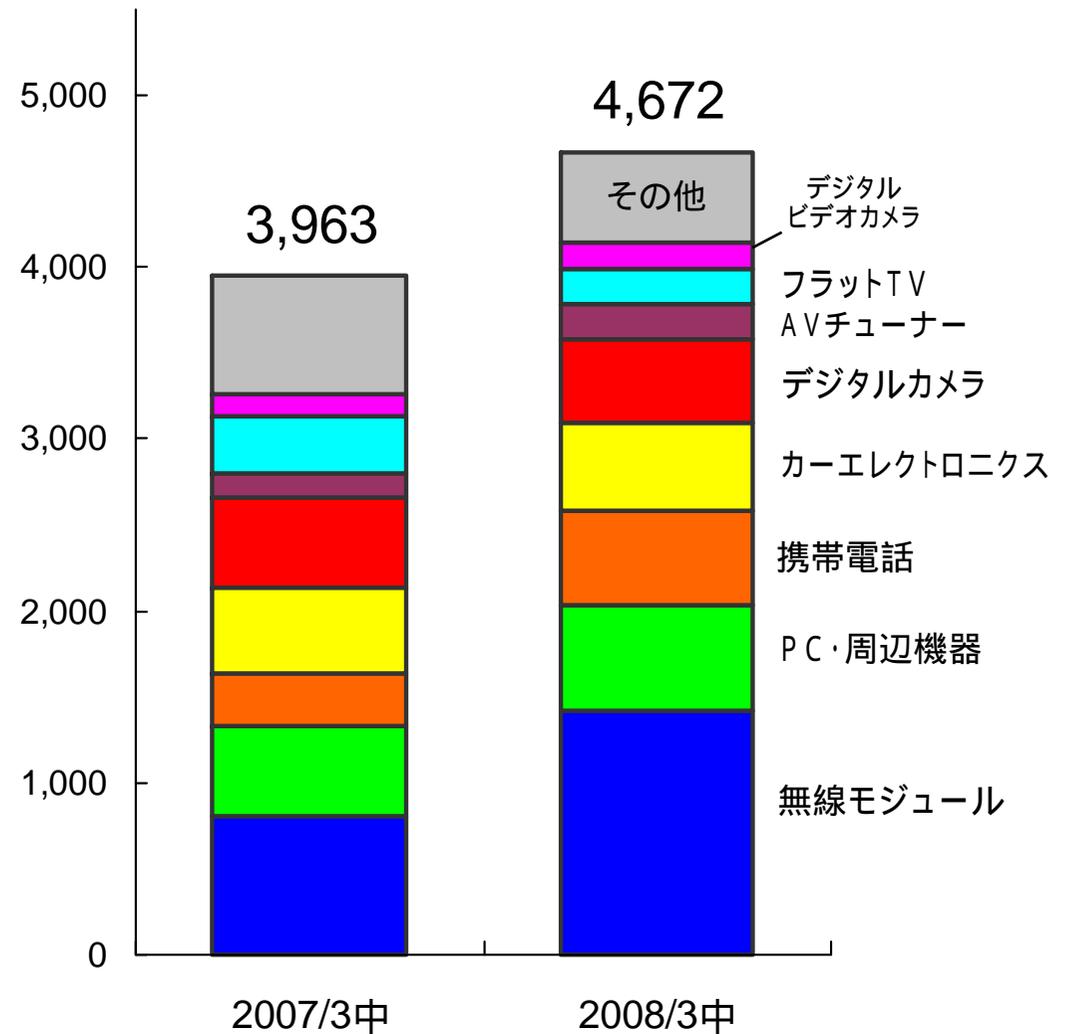
携帯向けはMNPによる効果
が寄与

車載関連は微増

売上高構成比

	2007/3中	2008/3中
無線モジュール	20.4%	30.5%
PC・周辺機器	13.3%	13.1%
携帯電話	7.8%	11.6%
カーエレクトロニクス	12.6%	11.0%
デジタルカメラ	13.1%	10.5%
AVチューナー	3.7%	4.4%
フラットTV	8.4%	4.2%
デジタルビデオカメラ	3.1%	3.3%
その他	17.6%	11.4%

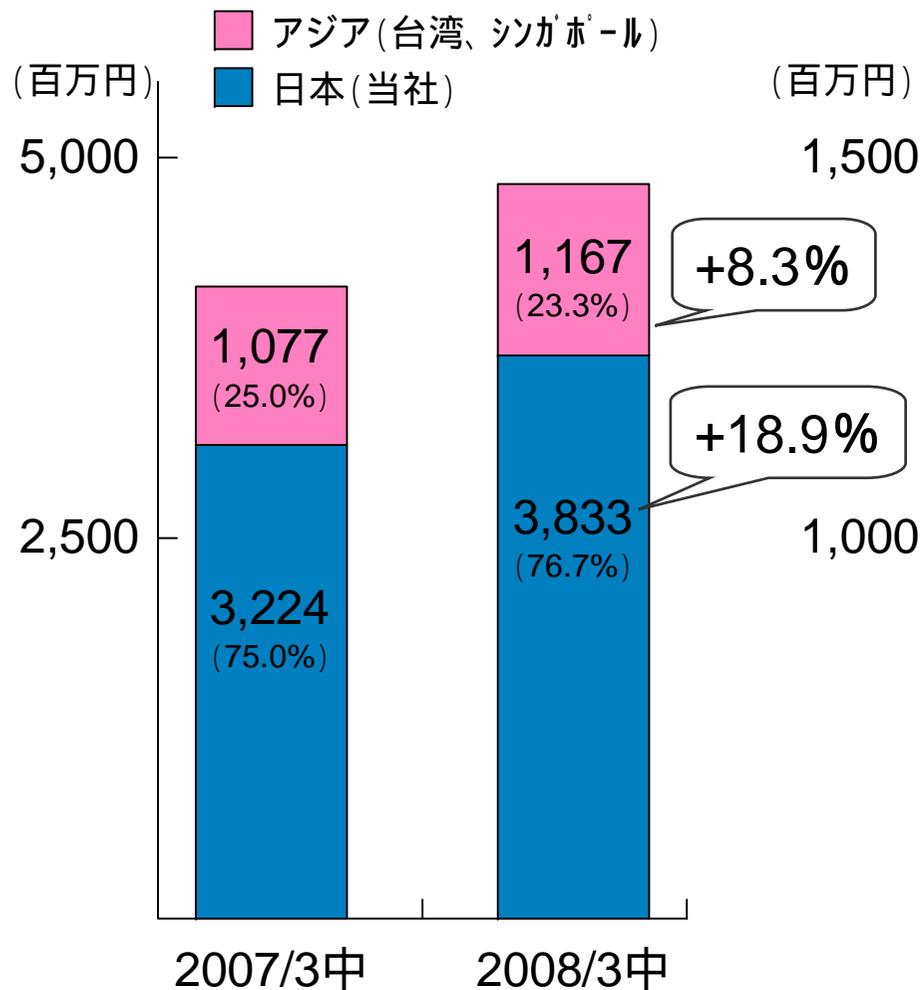
(百万円)



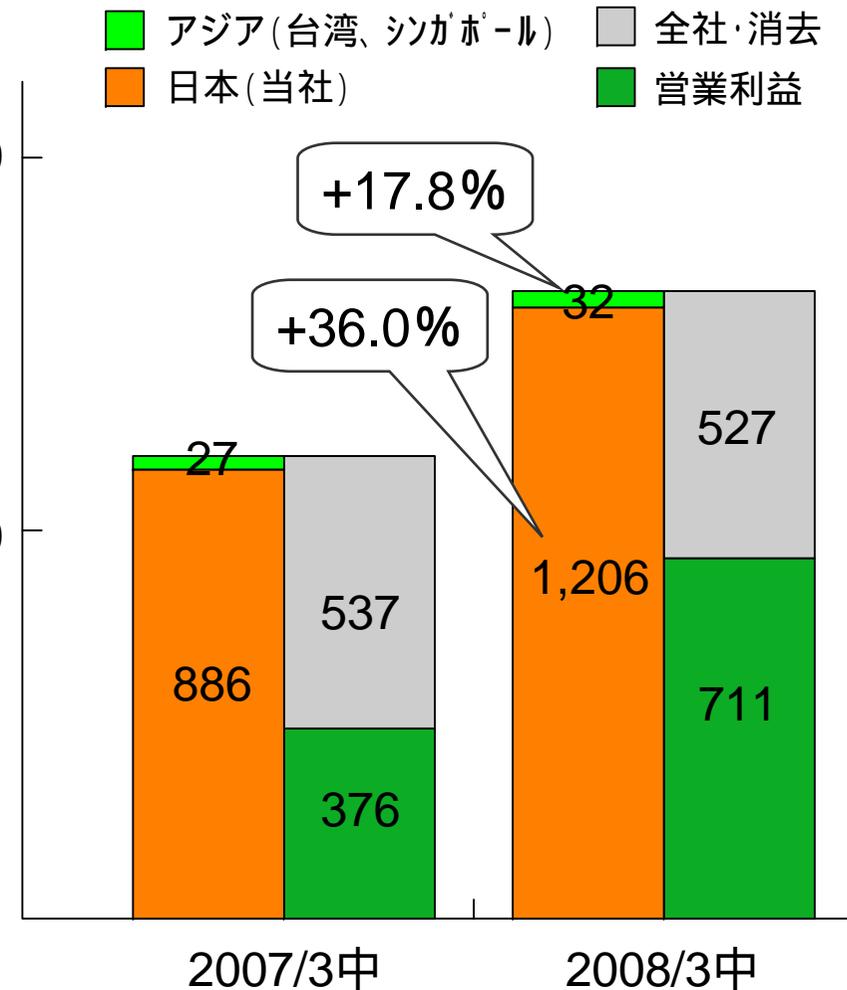
所在地別セグメント情報

()は売上高に占める割合。 □は対前期増減率

売上高



営業利益



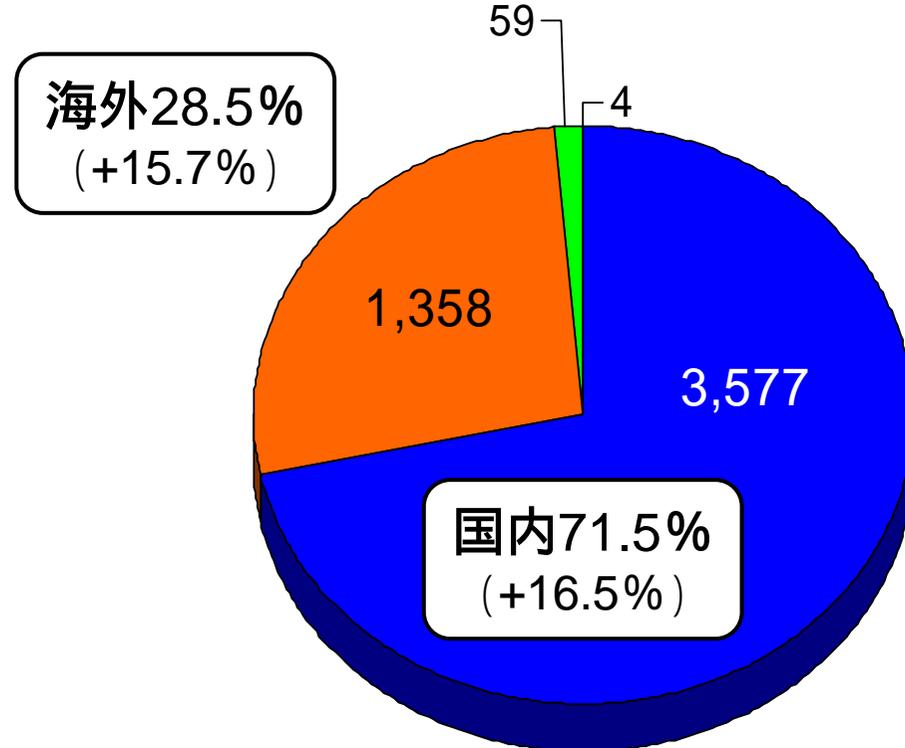
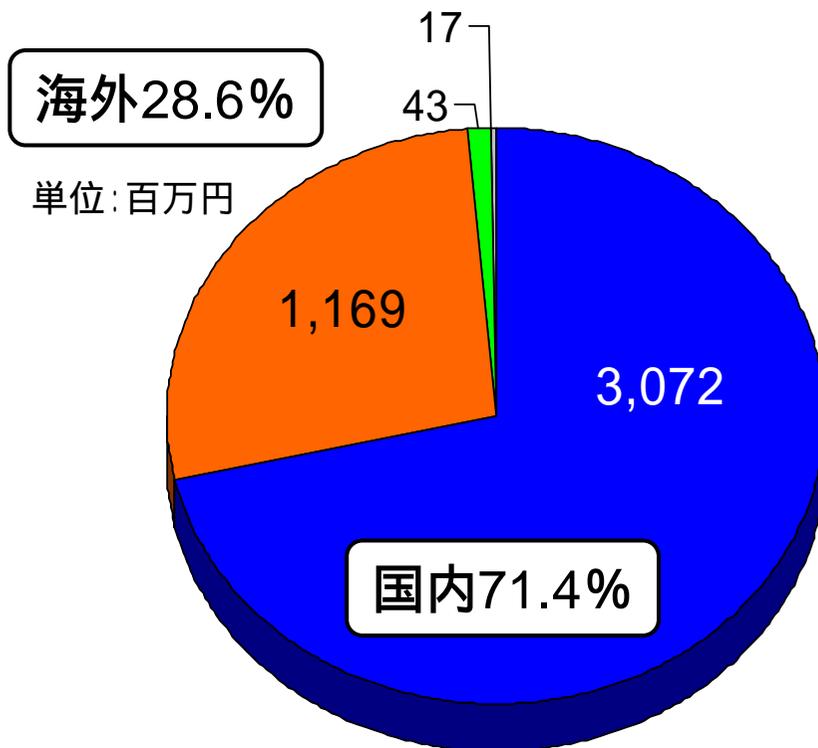
海外売上高

2007/3中

2008/3中

■ 日本 ■ アジア ■ 北米 ■ その他

■ 日本 ■ アジア ■ 北米 ■ その他

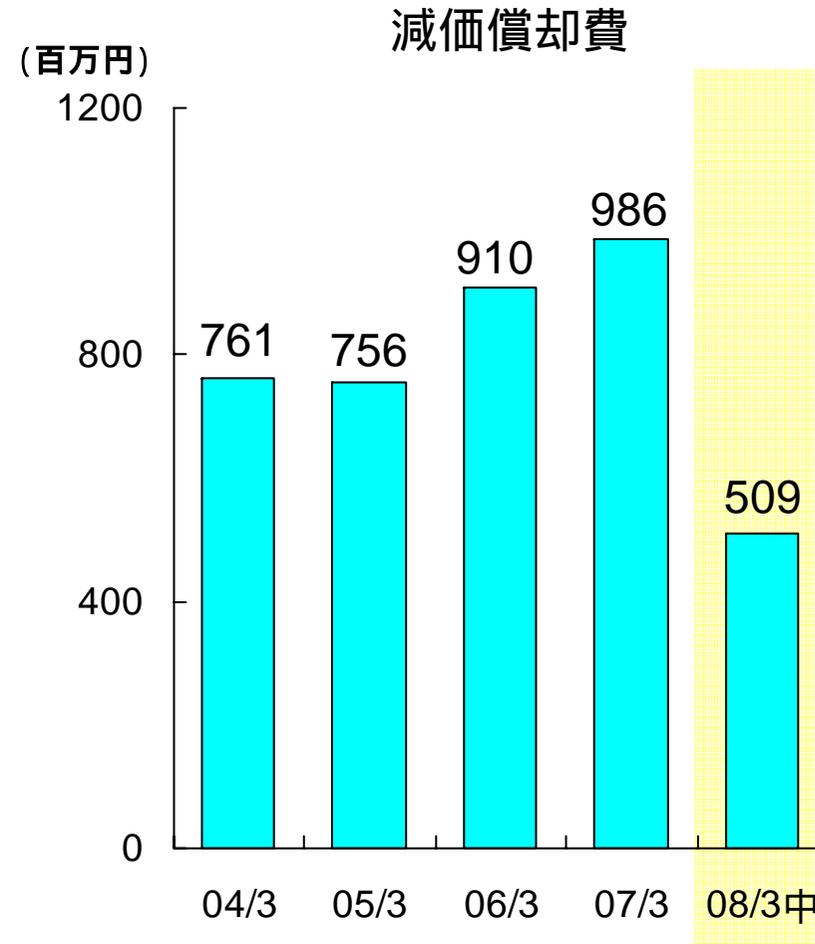
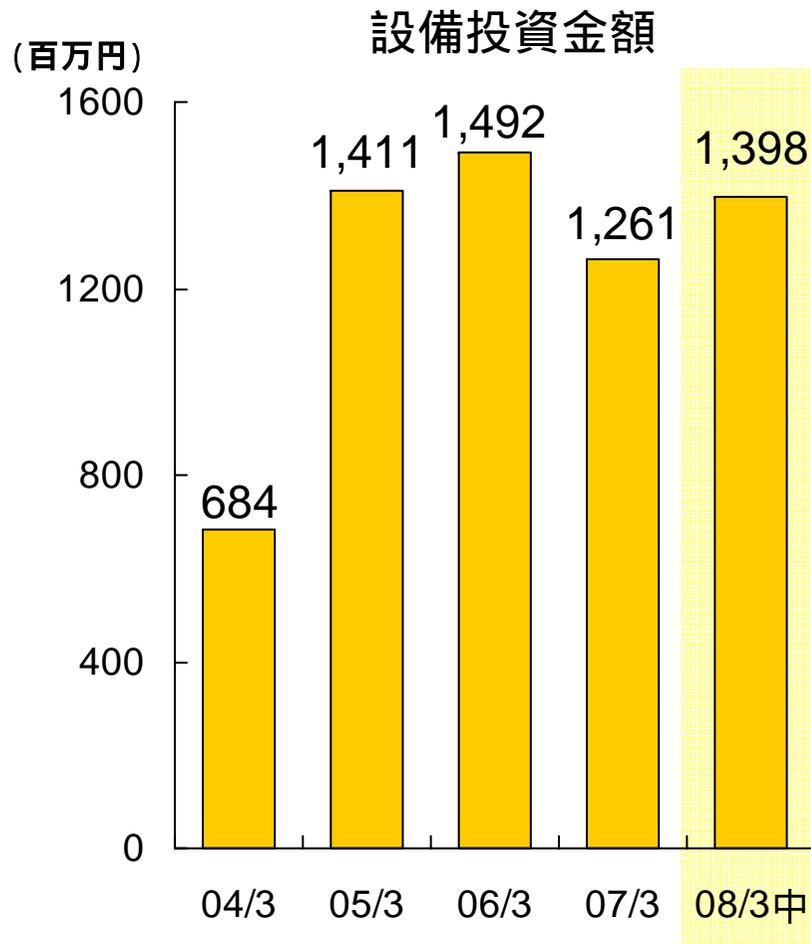


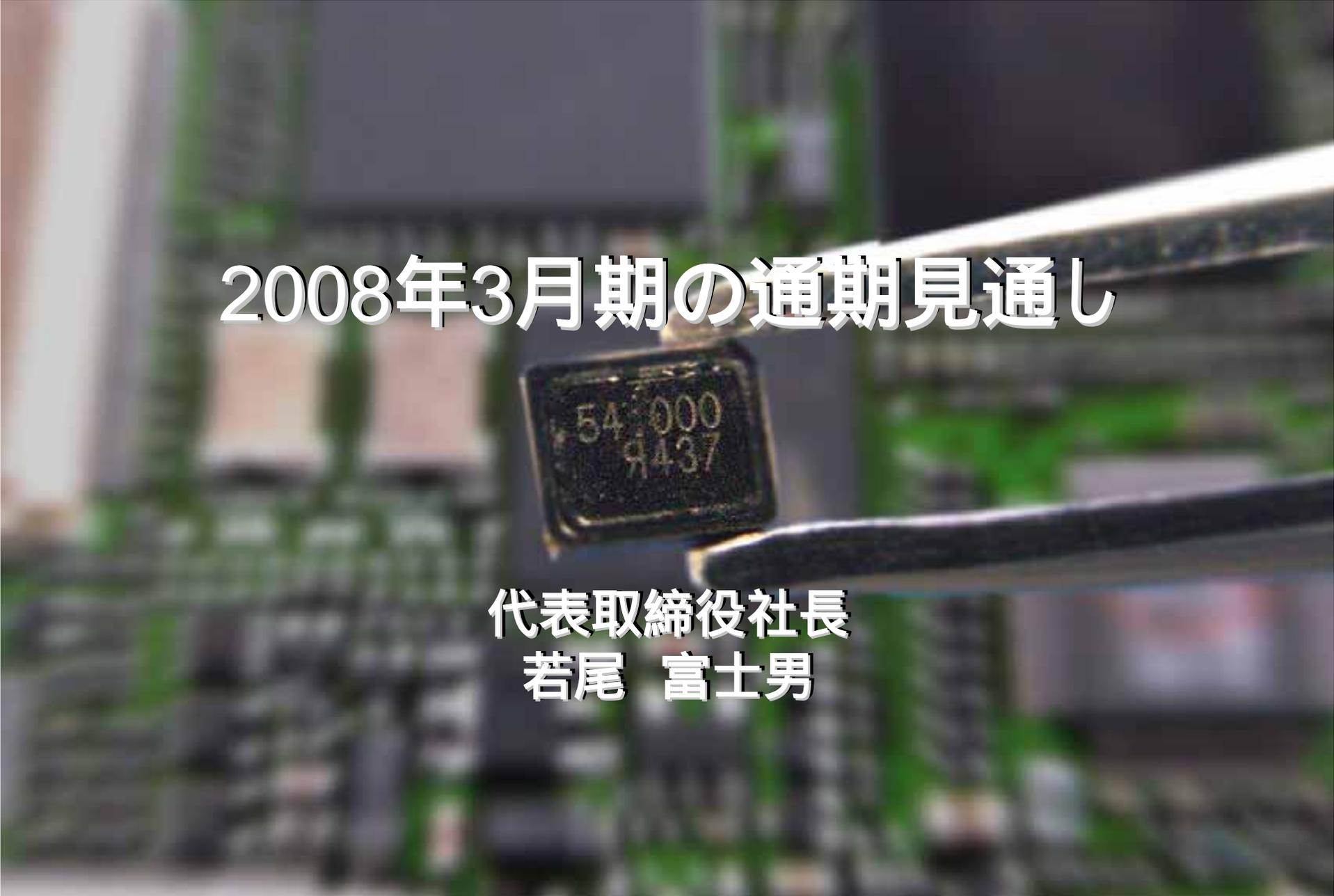
構成比
(前期売上高増減率)

連結貸借対照表

(百万円)	2008/3中	増減額	2007/3	増減要因
流動資産	6,176	337	6,514	現預金-728、売上債権+273
固定資産	7,403	858	6,544	機械装置+202、建設仮勘定+614
資産合計	13,580	521	13,059	
流動負債	4,147	323	3,824	支払債務+88、短期借入金-236、 設備支手+289
固定負債	777	140	917	長期借入金-136
負債合計	4,924	183	4,741	
純資産合計	8,655	338	8,317	利益剰余金+298
負債、純資産合計	13,580	521	13,059	
自己資本	8,299	318	7,980	
設備投資額	1,398	137	1,261	水晶製品生産設備の増強
減価償却費	509	477	986	
有利子負債	1,326	450	1,777	

計画前倒しで設備投資を実施



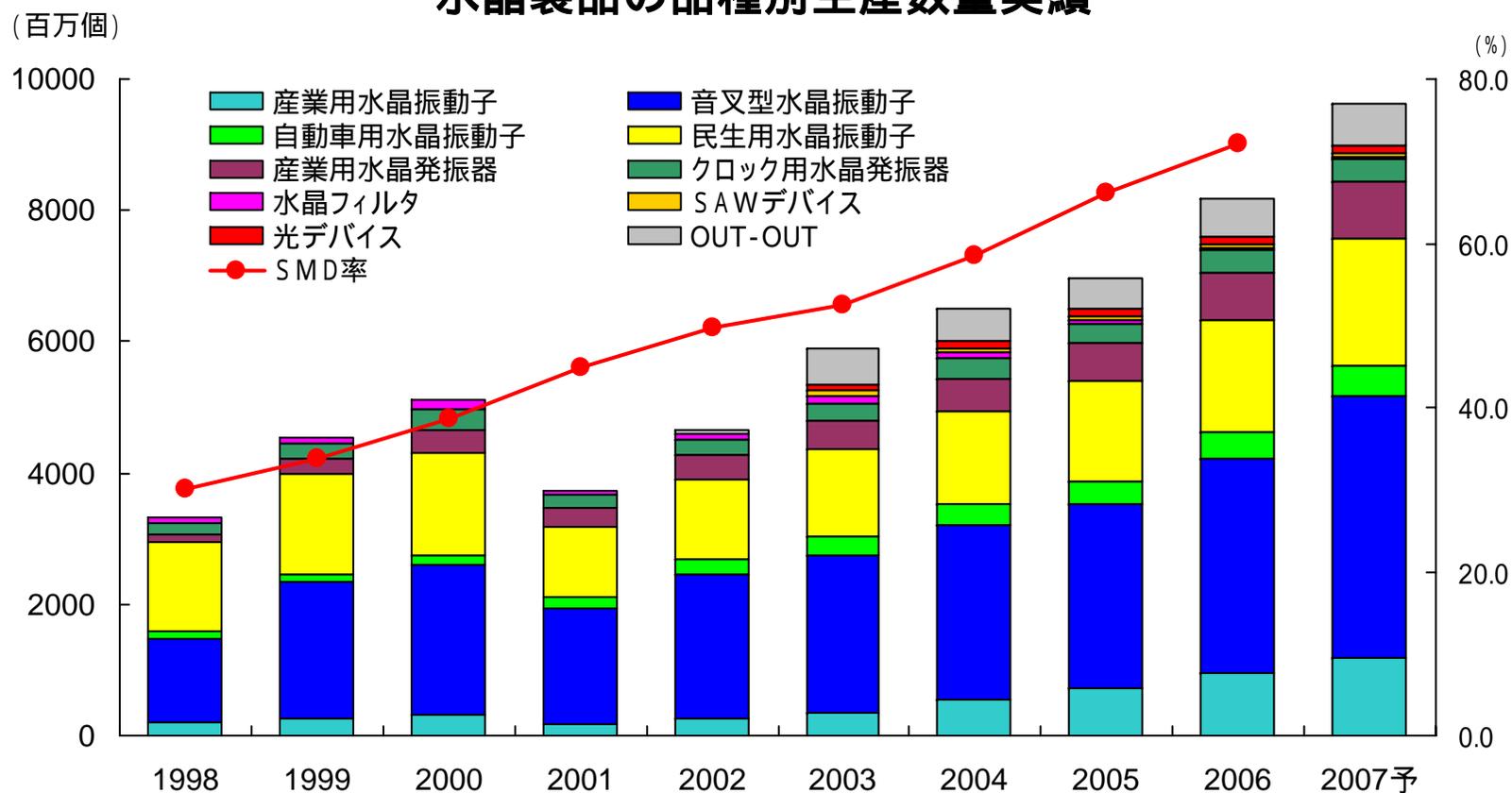
A close-up photograph of a small, square, dark microchip being held by a pair of tweezers. The chip has the numbers "54 000" and "9437" printed on it. The background is a blurred green and grey, suggesting a laboratory or factory setting.

2008年3月期の通期見通し

代表取締役社長
若尾 富士男

生産数量は下期も好調であり、上期を上回ると予測
2007年度予測96億個(前期比117%)

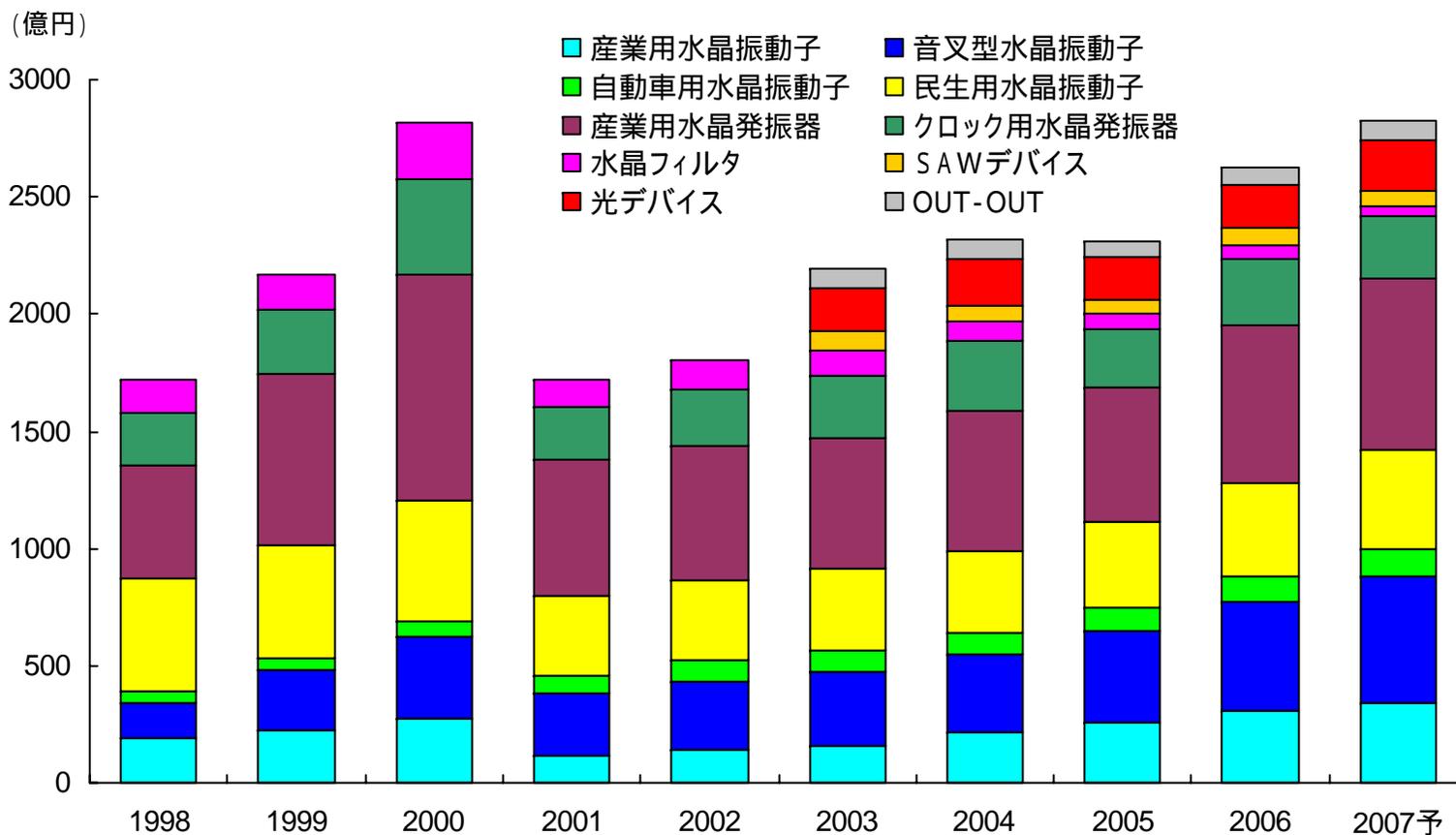
水晶製品の品種別生産数量実績



(出所) 日本水晶デバイス工業会資料より。

生産数量と同様、プラス成長だが、価格下落により伸びは低い
2007年度予測2,829億円(前期比107%)

水晶製品の品種別生産金額実績



(出所) 日本水晶デバイス工業会資料より。

3か年中期経営計画(2006.3～2008.3)の最終年度

高付加価値企業の実現

源流・創価・革新の追求

売上高経常利益率:10%以上
ROE:7%以上

顧客の満足と
信頼の獲得

顧客の視点に立った
企業活動を推進し、
顧客の満足と信頼を獲得する

独創的発想による
価値の創造

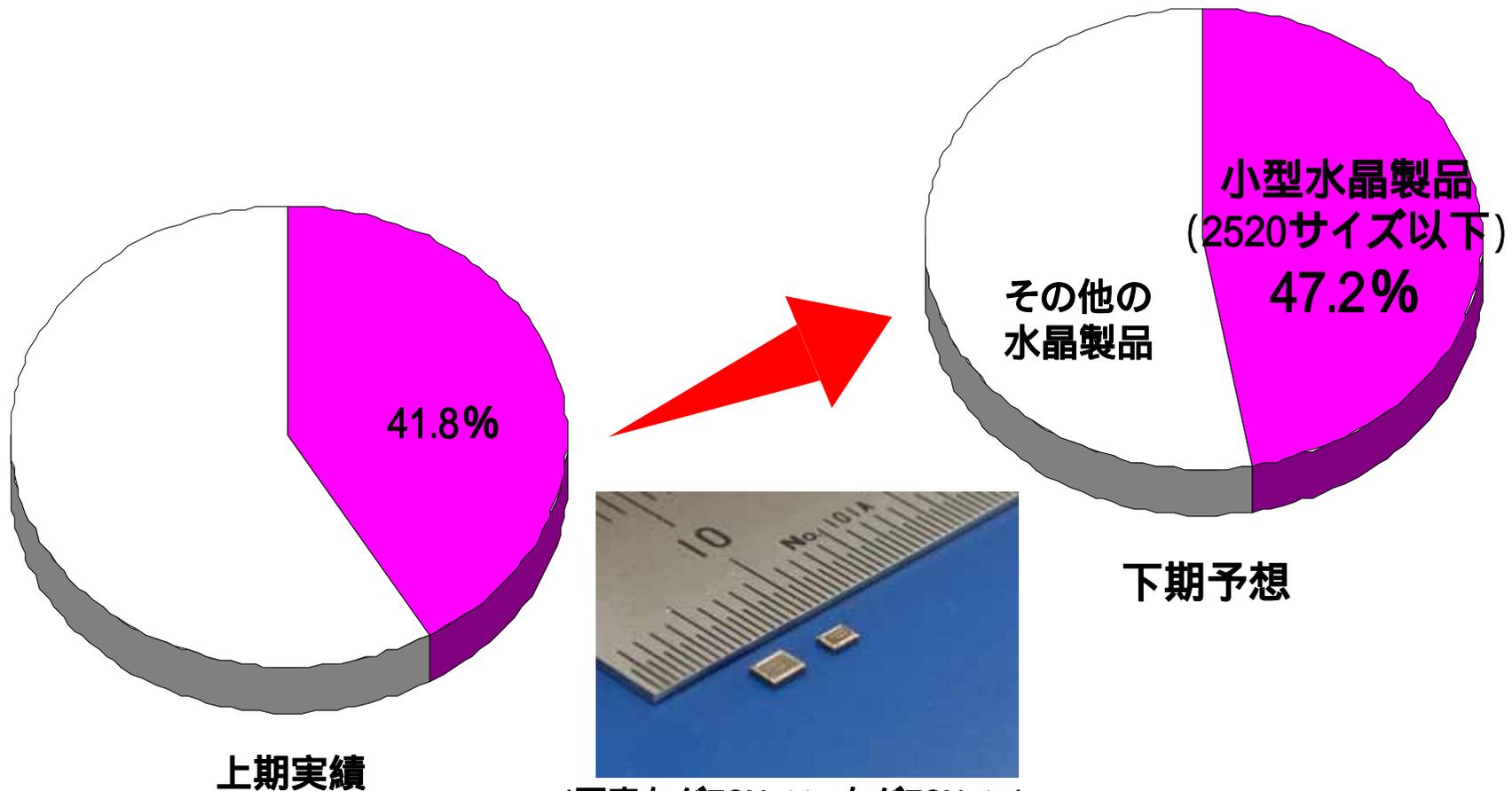
独創的発想により
差異化を追及し、
新しい価値を創造する

事業改革による
持続的な成長

事業構造の改革により
収益性を強化すると共に
効果的に経営資源を投入し、
持続可能な成長を図る

付加価値の高い超小型水晶製品の割合を高めていく
FCX-07が8月から量産開始 早期の販売拡大を目指す

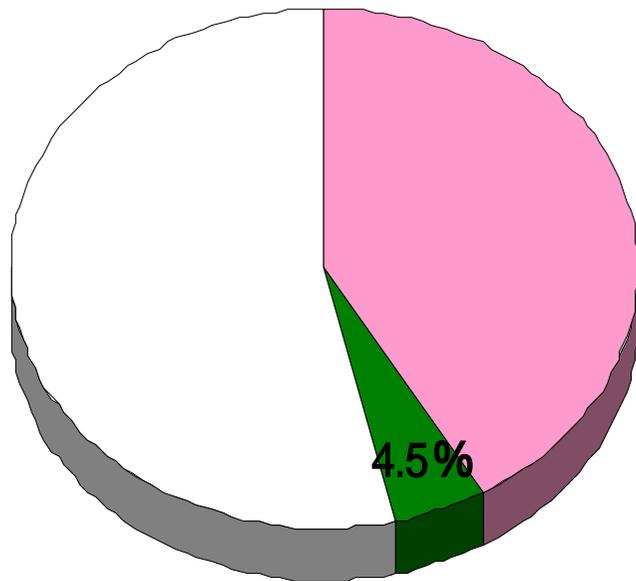
売上高構成比(水晶製品)



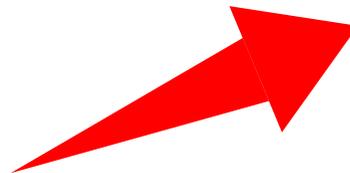
(写真左がFCX-06、右がFCX-07)

今後の成長に音叉型水晶振動子市場への拡販は重要条件

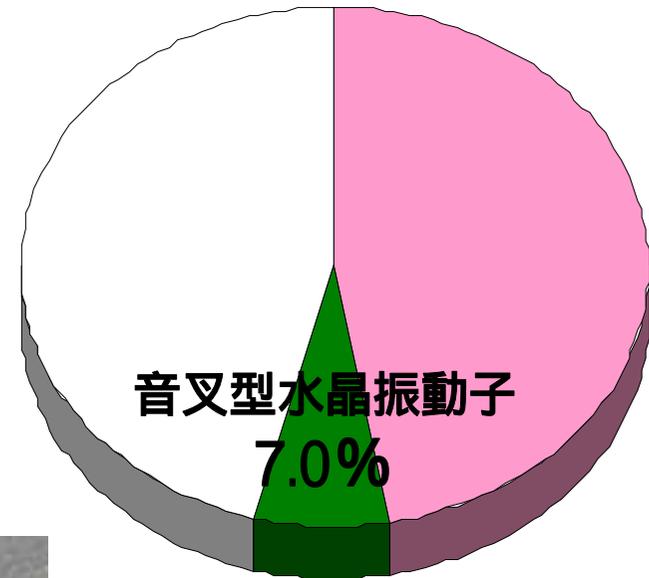
売上高構成比(水晶製品)



上期実績



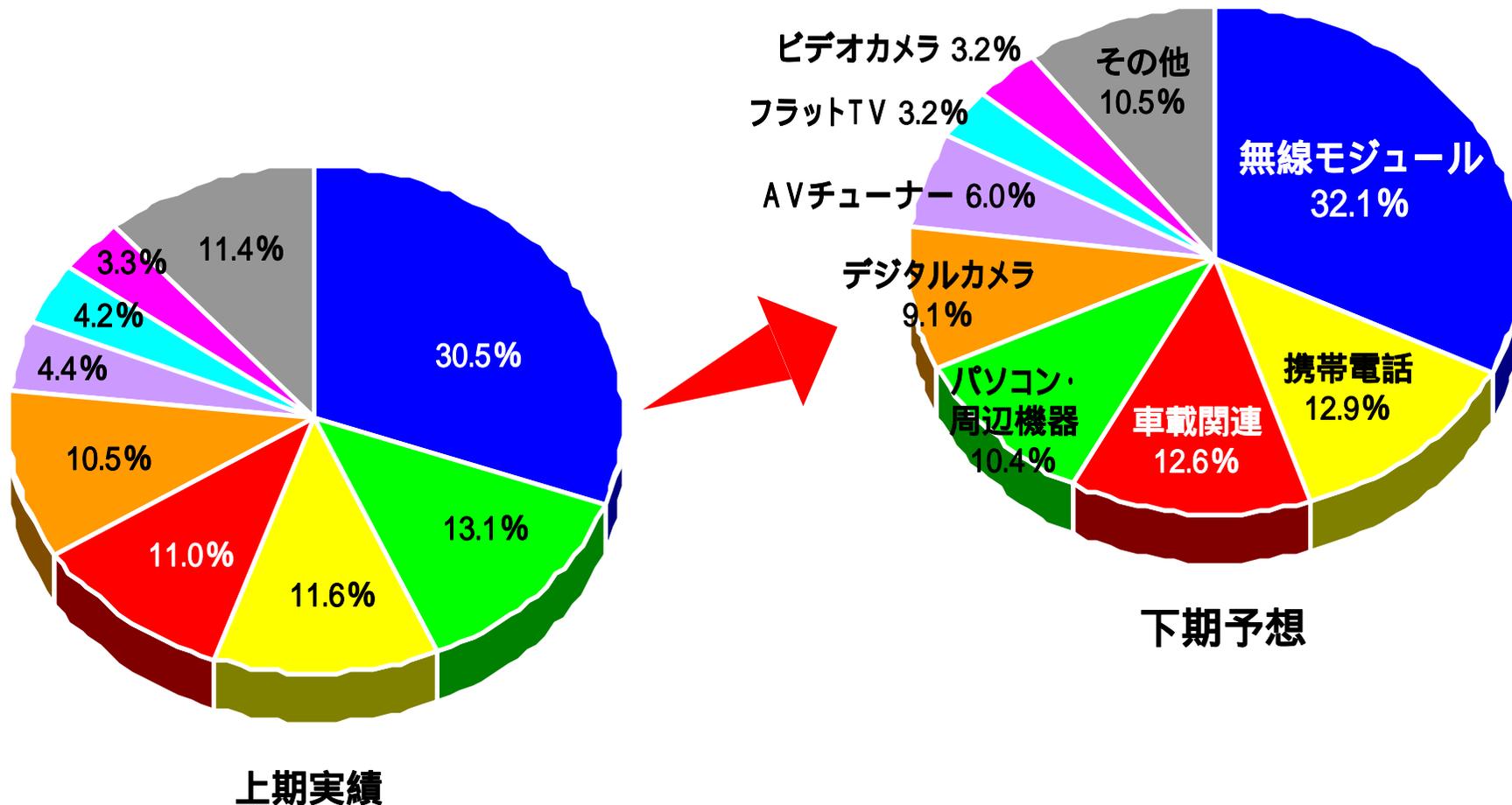
TFX-02
(3.2mm × 1.5mm × 0.8mm)



下期予想

無線モジュール、携帯電話、カーエレクトロニクス市場への拡販

水晶製品アプリケーション別売上高



ディーアンドエムホールディングス社

2007年度

VEC 優秀賞受賞

ソニーEMCS株式会社

長野テック

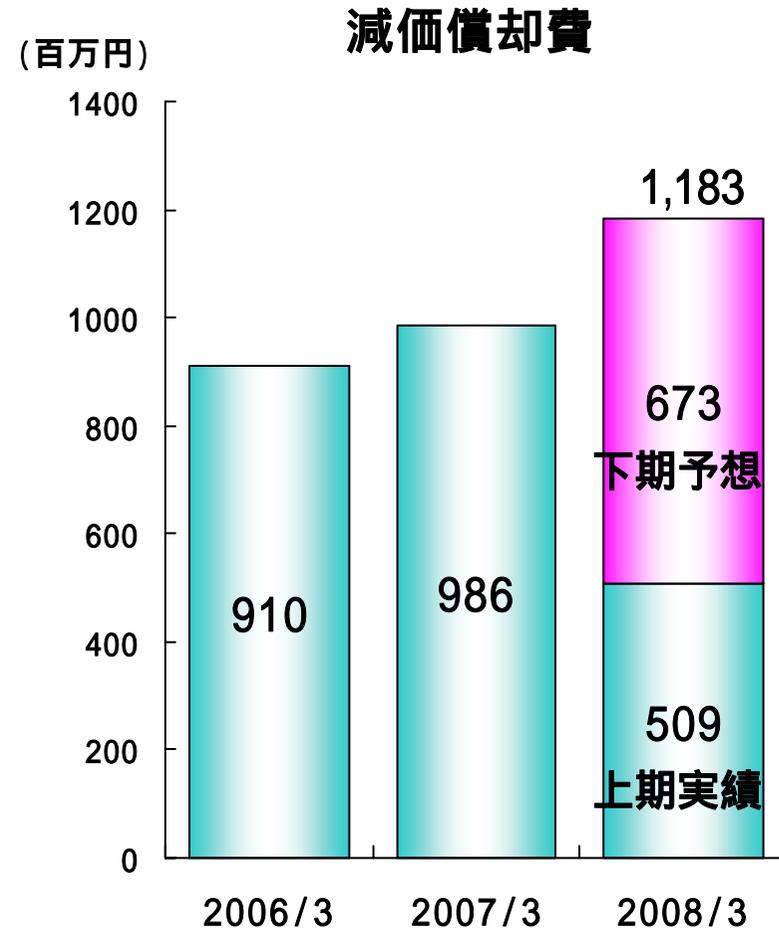
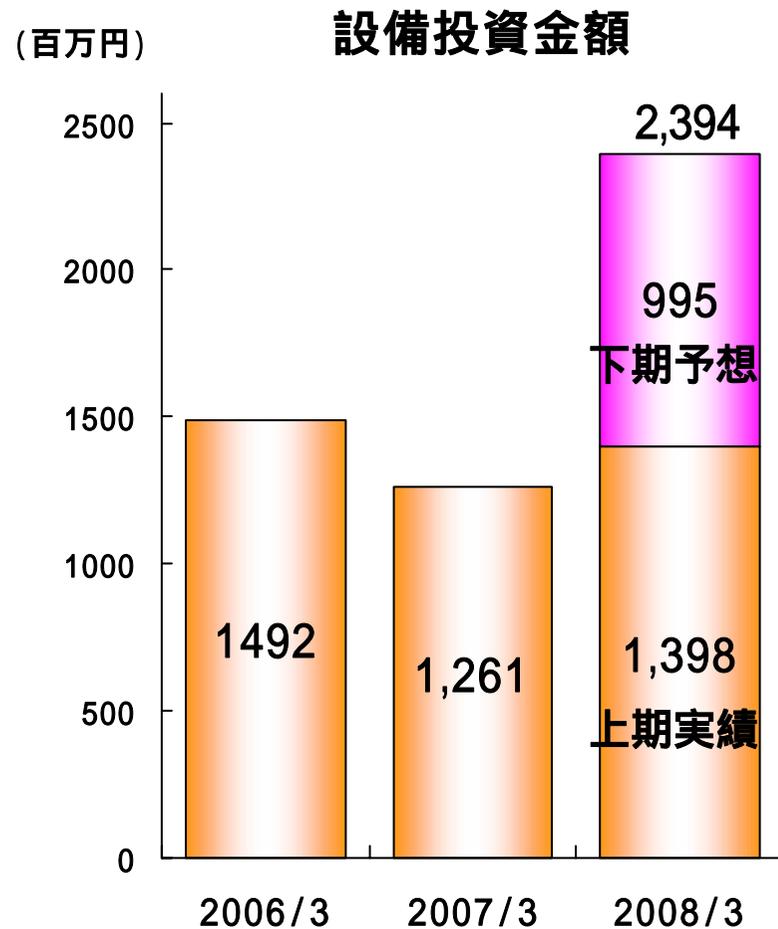
VAIOへの水晶振動子の供給における
小型化とコスト低減において

感謝状受賞



高品質・高信頼性の製品を供給することで
顧客満足度の向上を目指す

設備投資は計画を前倒しで実施 年度内に2,750万個体制を確立



	通 期	対前期増減率
売上高	100億19百万円	8.3%
営業利益	10億77百万円	24.9%
経常利益	10億71百万円	20.4%
当期純利益	6億35百万円	27.5%
1株当たり当期純利益	84円89銭	

下期計画レート US \$ = 114円
 為替影響額(1円変動)は、売上高8.8百万円、経常利益2.8百万円

3カ年中期経営計画の目標達成へ！

長期安定的な企業価値向上によって、安定的な配当を継続的に行うことと、連結業績及び配当性向等を総合的に勘案して利益還元。

	中間期末	期末	年間	配当性向
2007年3月期		15.00円	15.00円	73.2%
2008年3月期	7.50円	7.50円(予想)	15.00円(予想)	17.7%



このプレゼンテーション資料には、2007年11月28日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競合状況・為替・金利の変動等にかかわるリスクや不確定要素により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。